

日本温泉科学会第 60 回大会

特別講演 1

21 世紀の新しい治療法 : 和温療法

鹿児島大学大学院 循環器・呼吸器・代謝内科学
鄭 忠 和

Waon Therapy : A Novel Innovative Therapy in 21st Century

Chuwa TEI

Department of Cardiovascular, Respiratory and Metabolic Medicine,
Graduate School of Medicine, Kagoshima University

一般に患者にとって難治性疾患からの回復に寄与するものであれば、外科手術や放射線治療、あるいは化学療法、骨髄細胞移植など、いかなる苦痛を伴うものでも患者はすすんで受け入れる。しかし、患者の内面の葛藤や心身的ストレスがどれほど深刻であるかは知る由もない。平成元年から提唱してきた温熱療法は「患者を心地よい気分にさせ、気持ちよい発汗を促し、循環不全を改善させるとともに心身をリラックスさせる治療法」で、心身を和ませる温もり療法である。「和温療法」は私の造語であるが、癌に対する高温での局所療法などと区別して真の意味を理解しやすい。長年演者が提唱してきた温熱療法の真髄を表しており、今後は「和温療法」と命名して普及させたい。

「和温療法」の臨床応用は多彩で、その効果には目を見張るものがある。特に薬物療法で治療抵抗性の難治性疾患たとえば心臓移植の適応となる重症心不全、難治性潰瘍を伴う閉塞性動脈硬化症、重症の慢性疲労症候群や線維筋痛症に劇的な回復をみせることが少なくない。これらの効果は実に多彩である。「和温療法」は単なる臓器や局所の治療法ではない。全身の血管機能を改善し、中枢・末梢の自律神経や神経体液性因子を是正し、自己免疫や生体防御機構を賦活化する。

「和温療法」は、「心身を和ませる温度で全身を 15 分間暖め、深部体温を約 1.0°C~1.2°C 上昇させ、出浴後 30 分間の安静保温にて和温効果を持続させ、最後に発汗に見合う水分を補給する治療法である。「和温療法」を一日 1 回、週 3~5 日間、2~6 週間、施行すると、前述の難治性疾患に明瞭な効果が得られる。さらに週 2~3 回の反復継続により「和温療法」の効果は確実に持続する。「和温療法」は血管内皮における一酸化窒素合成酵素 (eNOS) の mRNA の発現を著明に増加させ、eNOS 蛋白の発現を増強する。「和温療法」は遺伝子レベル、分子レベル、細胞レベルでその効果発現に深く関与し、生体の回復に重要な役割を演じている。

結語: 「和温療法」は安全で対費用効果に優れ、我慢を強いる従来の治療法とは異なり、患者を和ませ、爽快な発汗を促す優しい包括的治療法である。「和温療法」が 21 世紀の新しい治療法として、多くの患者の福音になることを心から念願したい。